



Title	高知県西土佐大宮方言におけるジャ・ヤとその周辺
Author(s)	カーター, バーバラ; 白坂, 千里
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2014, 12, p. 1-13
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/36101
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

高知県西土佐大宮方言におけるジャ・ヤとその周辺

カーター バーバラ・白坂 千里

【キーワード】 西土佐大宮方言、ジャ、ヤ

【要旨】

本稿は、高知県西土佐大宮方言におけるジャ、ヤの生起環境について、調査票を用いた面接調査の結果と談話からの結果をまとめ、考察を行った。その結果、ジャは名詞述語文・形容動詞述語文に使用されるが、動詞・形容動詞述語文の推量形にはジャは使用されないもしくは使用されにくいこと、ヤは以上のいずれの環境にもみられ、ヤがジャよりも広い範囲で使える形式であることが明らかとなった。そしてヤよりもジャの方が使用されやすく、さらにヤに関して話者の意識がゆれることなどから、大宮方言においてヤはジャよりも新しい形式であることが分かった。

1. はじめに

本稿では、高知県四万十市西土佐大宮方言（以下、大宮方言）を対象に2012年7月に行った調査のうち、主に名詞述語文にあらわれるジャやヤとその周辺に関する結果報告を行う¹⁾。日本語では以下の(1)(2)のように、名詞述語文などにおいてジャ、ヤなどが方言によって使用される。

(1) 明日は休みヤ。

(2) 昨日は休みジャッタ。

また標準語の「ダロウ」に相当する表現には、ジャやヤといった形式が名詞述語文であるか否かに関わらず使用されることがある。当該方言ではこのような表現にどの形式を用いるか、そしてどの表現と共起できるかについて調べることを目的とし調査を行った。その結果、大宮方言ではジャを名詞・形容動詞を述部に取りする場合に使用し、標準語の「ダロウ」に相当する推量形でも同様に名詞・形容動詞を述部に取り場合にジャを使用する。そしてヤも名詞・形容動詞を述部に取り場合に使用するが、推量形では述部に関係なくヤが使用できるということが明らかになった。また大宮方言においては他の方言と同様に、ヤがジャに比べて新しい形式であることが明らかになった。

以下ではまず2節で当該形式に関する先行研究を挙げ、次に3節で調査の概要を説明する。4節で調査結果を提示し、5節では大宮方言におけるジャとヤの生起環境とその関係について考察する。最後の6節では今後の課題について述べる。

2. 大宮周辺地域におけるジャ・ヤ

大宮方言では、ジャ、ヤが使用されている。大宮方言を対象としたジャ、ヤに関する詳細

1) 調査票の作成、本調査の実施、報告書の作成はすべてカーターと白坂、共同で行った。

な記述は管見の限り見当たらない。そこで、本節では大宮の近隣地域におけるジャ、ヤの使用についてみていく。

まず本稿で扱うジャヤヤといった形式は、断定辞や繫辞動詞とも呼ばれるもので、主に体言（名詞、形容動詞語幹、準体助詞など）が文の述部となる文において体言に後接するものであり、標準語におけるダに相当する形式である²⁾。ジャとヤの関係について、真田(1984:101)では、「ヤはジャを母胎として生まれ、ジャの領域内で新しく広がったものである。現在、ジャはいずれの地においてもヤに圧倒されている」と指摘されている。これに関しては富山県西南部に位置する真木集落においても、真田(1983)でジャからヤへの交替が観察されている。

またこの生起環境の多様性について述べたものに、白岩・平塚(2009)がある。白岩らは、日本放送協会編『全国方言資料³⁾』を用いて、デスなどの丁寧体形式を除いた名詞・形容動詞・ノダ文・あいづち表現のソウ（及びその方言形式）を取った述部をすべて収集し、分析を行った。その結果、これらの形式をどのような環境で使うかという点で日本語内に地域的多様性があることを明らかにした。

次に、本稿の対象地である大宮の周辺地域におけるジャ、ヤの使用についてみていく。白岩・平塚(前掲)では前述のように『全国方言資料』のテキストからコピュラの生起環境の地域差が明らかにされた。これには本稿で扱うジャヤヤも含まれる。対象とされた21地点のうちに含まれる高知県香北町の結果は以下のようにまとめられる。

- ・ 無活用の主文末で最も数多くみられる語形はジャである。
- ・ 推量形（ダロー相当）においてはジャを使用する。

さらに、白岩・平塚(前掲)では対象とされていない四国の各地域（高知県高知市領家針原、高知県幡多郡大方町、高知県幡多郡大月町竜ヶ迫、及び愛媛県北宇和郡津島町）の『全国方言資料』のテキストから、ジャ、ヤの使用傾向についてまとめると以下のようになる⁴⁾。

- ・ 名詞述語文の《非過去・肯定》はどの形式も付加されないことが多い。
- ・ 名詞述語文の《過去》や《否定》と共に現れるものは主にジャである。
- ・ 名詞と接続詞の間にジャが入る。
- ・ 推量形や仮定形も、ジャローやジャッターラのように、ジャを取る。

このように、以上の地域では、名詞《非過去・肯定》の場合には何も取らないことが多いが、《過去》、《推量》などのように、活用する場合にはジャを取るといえる。また、高木(2002)の高知県宿毛市における幡多方言高年層話者同士のテキストにおいても、同じような傾向がみられた。なお、ヤの例も現れたものの、高知県幡多郡大月町竜ヶ迫のテキストに2例、愛媛県北宇和郡津島町のテキストに1例、高木(前掲)のテキストに2例のみで

2) 先行研究の中にはこの形式を「コピュラ」と言及するものがあるが、コピュラと認める範囲に多様性があることなどから、本稿では「コピュラ」という用語を使用しない。白岩・平塚(2009)に関してはジャ、ヤを本文中で「コピュラ」と言及しているためそのまま引用している。

3) 1880～90年代生まれの話者を対象に自然談話及びロールプレイ談話を収録した談話資料。

4) テキストにおいて形容動詞が使用されたのは、多くても各地2例ずつであり、出現数は非常に少なかったため名詞の結果のみを挙げる。

あったため、大宮の周辺地域ではジャの方がヤより多く用いられるといえる。

以上、大宮の周辺地域におけるジャ・ヤなどの生起環境をまとめてきたが、以上の結果をみると、本稿の調査対象となる大宮方言では名詞述語文において使用する形式はジャであるが、どの形式も用いないことも多いと予測が立てられる。

3. 調査の概要

名詞述語文にジャ・ヤなどを用いるか、中でもどの形式を用いるかという点においては日本語内でも地域差がある。本調査は、意味には触れず、大宮方言において名詞・形容動詞・動詞・形容詞それぞれを述部にとる文においてジャ・ヤを用いるか、どちらの方を用いるかを調べることを目的とする。調査は面接調査を行い、補足資料として談話テキストも分析に使用した。以下 3.1 節では調査の概要について述べ、3.2 節では面接調査及び談話調査にご協力いただいたインフォーマントの情報を提示する。

3.1. 調査方法

本調査は方言翻訳法を採用し、インフォーマントに標準語で作成した調査文を方言に訳してもらって面接調査を行った。調査には、ジャ・ヤの可能な活用を中心に、標準語のダが現れ得る調査文を用意した⁵⁾。具体的に述べると、名詞述語文の非過去形と過去形及び形容動詞の非過去形と過去形、加えて標準語の「ダロウ」に相当する推量形についても確かめた⁶⁾。

また、面接調査からは分からない実際の会話でのジャ・ヤの使用実態についてもみるために、2012 年度に収録した談話資料も補足的に用いる。録音時間は 41 分 42 秒で、話題に困ったときのために話題表を手渡しているが、話題の指定はしていない。

3.2. インフォーマントの情報

面接調査と談話調査のインフォーマントは同じであり、そのインフォーマントの情報を以下の表 1 に示す。

表 1 インフォーマントの情報

話者 ID	年齢	性別	居住歴	調査日
AEF	81	女性	0- : 大宮	2012.7
AJM	90	男性	0-17 : 大宮、17-19 : 広島県、19-23 : 中国 (蘇州)、23- : 大宮	2012.7

5) 調査文は西尾・船木 (2001)、真田編 (2001・2002)、大西 (2002)、工藤 (2007a) を参考に作成した。なお、本稿は文末詞を用いない述語文についてのみ扱い、文末詞と共起する場合については今後の課題としたい。

6) 形容動詞の例として「元氣」を使用した。インフォーマントが答えづらい場合があると予想し、「丈夫」を使用する補遺調査票も用意した。

4. 調査結果

本節では調査の結果について述べる。先に結果について簡単に述べると、大宮方言で主に使われる形式はジャであり、ジャは表2に示した環境のうち、動詞・形容詞に後接する推量形の場合以外によくみられた⁷⁾。ジャ・ヤの使用範囲の概要を以下の表2に示す。

表2 大宮方言においてジャ・ヤが生起する環境

前接要素	活用形または後接要素	ジャ	ヤ
名詞・形容動詞	肯定形	○	○
	否定形	○	○
	連体形（過去）	○	×
	仮定形	○	○
	接続助詞・接続詞	○	○
	推量形	○	○
動詞・形容詞		×	○

表2から、ジャもヤもほぼ同じ範囲で使用されることが分かる。しかし、4.5.3節で後述するように、ジャを使用しない動詞・形容詞につく推量形の場合にもヤが用いられることが分かった。また、話者の意識（面接調査の結果から得られた回答）よりも、談話でみると実際のヤの使用は多いようである。

以下4.1節で名詞を述部を取る文について述べ、4.2節で形容動詞を述部を取る文について述べた後、4.3節で名詞と形容動詞の仮定形について示す。次に4.4節で接続詞や接続助詞など複文の従属節になった場合について述べ、最後に4.5節で標準語の「ダロウ」に相当する推量形について述べる。

4.1. 名詞

名詞を述部を取る場合、大宮方言で主に使用されるのはジャであった。ヤの回答にはAJMとAEF両方に揺れがある。しかし、談話ではヤの使用も多く、ヤは話者が意識しているよりも使用されるようである。

まず面接調査の回答をみていくと、名詞述部文においては主にジャが使用される⁸⁾。ヤが回答として得られたのは、名詞述語文の言い切りの形(3)(4)(5)のみであり、ジャよりも使用が少ない。

(3) 明日は休み〈ジャ／ヤ〉。 ((1) 再掲)

(4) 昨日は休み〈ジャッタ／?ヤッタ〉。 ((2) 再掲)

(5) 今日休み〈ジャナイ／ヤナイ〉。

7) 大宮方言では一般的に動詞・形容詞の場合にはジャもヤも付加しないことが分かったため、付加可能な推量形について述べる4.5節のみで動詞・形容詞の結果を挙げる。

8) 以下例文において、形式に付加している「*」は文法的に不適格であることを、「?」はヤや不自然であることを表す。

以下の (6) のように、過去の否定になるとヤは使用されない。

(6) 昨日は休み〈ジャナカッタ〉。

連体形では、(7) のように非過去の場合は助詞のノを取り、ジャがくることはできないが、過去の場合は (8) のようにジャを取る。

(7) あの人は小学生〈ノ〉孫がいる。

(8) 小学生〈ジャッタ〉あの子も今では高校生になった。

なお、次の (9) (10) のような否定の丁寧形でもジャが使用されるが、これは標準語形のジャナイなのか方言形ジャの活用形なのかは不明である。

(9) 今日は休み〈ジャ〉ありません。

(10) 昨日は休み〈ジャ〉ありませんでした。

以上のように全体的にジャの方がヤよりも使用範囲が広いが、ジャとヤのどちらが優勢かについて談話の使用をみていくと、名詞や名詞相当（「何」・助数詞など）に後接するもので、後接要素がないものの使用数はジャのほうがヤよりも多い。これはヤよりもジャを使用するという回答が多かった面接調査の結果と一致している⁹⁾。しかし、実際の談話ではヤの使用も多くみられた。詳しく述べると、文末詞が後接しない名詞述語文は全 54 例みられ、ジャ 19 例、ヤ 14 例であった。そのうち、ジャ 12 例、ヤ 6 例は「思う」、「言う」などが後接する引用文に現れた。また、ジャとヤどちらについても非過去形・過去形両方の使用が確認できた。

なお、否定形は 3 例しか現れず、すべてが以下の (11) のようにジャであった。したがって、ヤナイは面接調査の結果に現れたものの、談話では確認できなかった。

(11) 220AJM: あれ、 しょ、 そうジャない。 日帰りの あれ。

なお、今回は一般名詞について主に扱っており、名詞相当である準体助詞について詳しく調べることはしていないが、談話では準体助詞に後接するジャ、ヤの使用が多くみられた¹⁰⁾。ジャは引用文 2 例を含め 12 例と多くなるが、ヤは 5 例現れた。また談話ではジャがすべて以下の (12) のように方言形の準体助詞ガと共に現れたが、(13) や (14) のようにヤが他の準体助詞ンやノと共に起る例もあった。

(12) 007AJM: 渡しのべて 掘り出したがジャ。

(13) 062AJM: 行っちゃったんヤ。

(14) 250AJM: あのら # 放っちゃーて どこ 行つとるのヤ。

このように、談話でそれほど変わらないといえる頻度でジャとヤを使用しているが、ジャは

9) (8) のようなジャ・ヤの連体形については談話において使用がみられなかったため、本稿では、面接調査の結果のみをあげている。なお、言い切りの場合にヤが使用できるのに対し連体形としてヤが回答されなかったことについて、次のような理由が考えられる。文末という目立つ位置にくる言い切りの場合に比べ、連体形は語と語にはさまれ、なおかつ言い切りよりも文法的機能を担うものである。おそらく新しい形式が体系に導入されたときにまず使用されやすいのは目立つ言い切りの形からであり、連体形での使用はそれ以降に起こる。そのため当該方言で新しい形式であるヤ（詳細は 5 節で述べる）は連体形で使用されにくいと考えられる。この点に関しては、形容動詞の場合も同様である。

10) 大宮方言における準体助詞の詳細は、野間 (2013) を参考にされたい。

方言形としか共起せず、ヤは他の形式との共起がみられた。言い換えると、ヤの方が標準語形と共起しやすいという前接要素によってジャとヤが使用できるかどうかの違いがあるのではないかと考えられる。

以上みてきた名詞に後接する形式についてまとめると、ジャもヤも後接することができるが、談話全体での使用をみるとヤよりもジャが優勢的に使用され、方言独特の形式にはヤよりもジャが後接しやすく、標準語形式にはヤが後接しやすいということがわかった。

4.2. 形容動詞

形容動詞においてもジャがよく使用されるが、ヤを使用するとの回答は名詞と比べると少なかった。詳しく述べると、ジャは連体形非過去以外のすべてにおいて使用され、一方でヤは、AJMのみが言い切りの過去形(16)で使うと答えた¹¹⁾。

- (15) 孫は元気〈ジャ〉。
- (16) 昨日の夜は元気〈ジャッタ/ヤッタ〉。
- (17) 犬が元気〈ジャナイ〉。
- (18) 子供が元気〈ジャナカッタ〉。
- (19) 元気〈ジャッタ〉子供。
- (20) あの人元気〈ジャ〉ありません。
- (21) 昔は元気〈ジャ〉ありませんでした。

以上のように、形容動詞述語文においてはヤよりもジャが使用される。なお、大宮方言ではナという形式も形容動詞と共起し、ジャの他に肯定の過去形として「元気ナカッタ」のような回答が得られた。ヤの不使用の原因の一つとしてナという形容動詞専用形式の使用が挙げられるとも考えられる。

なお、談話における形容動詞の例は1例のみであった。それが以下の(22)である。この例では、引用文中ではあるが非過去のヤが使用されており、形容動詞述語文の非過去においてヤで言い切ることも不可能ではないことが示唆される。

- (22) 210AJM: 俺は、 産業 いやヤ いうて やめてから いかんが

4.3. 仮定形

仮定形の面接調査の結果については4.1節で述べた節末に取る形式と一致しており、(23)のように名詞に続く仮定形はジャを取る。

- (23) 明日休み〈ジャッタラ〉、海に行こう。

談話では次の(24)のようなヤッタラが4例現れ、(25)の否定形が1例あったものの、ジャッタラは談話で使用されていなかった。つまり、実際の談話では意識するよりもヤの方が優勢的に使用されるようである。

- (24) 092AJM: ほんで 50戸 ヤッタラ 500、 500人ば...

11) なお、AEFは「元気」という例文に対して回答に難色を示したため、形容動詞語幹を「丈夫」に変えて調査を行った。

(25) 189AEF: そジャナカッター、 やっぱ そんなんが あるろーけんね。

また、談話で形容動詞の例は現れなかったが、以下の(26)のように、面接調査でジャもヤも使用する回答が得られた。

(26) もっと元気〈ジャッター/ヤッター〉、一緒に遊んでやれるのに。

以上、仮定形に関しては、名詞はジャを使用すると意識されているが、談話ではヤも使用されており、形容動詞の場合にもジャとヤが使用可能ということが分かった。

4.4. 接続詞・接続助詞

4.4.1. 原因・理由の接続助詞

大宮方言の原因・理由の接続助詞にはケンドがあるが、これと共に起するのは主にジャである¹²⁾。さらに以下(27)～(30)をみてわかる通り、ジャは方言形式と共に起できるが、標準語形式と共に起しない、または共に起しにくい場合もみられた。

(27) 今日は休み〈ジャケン〉、家でんびりしていよう。

(28) 昨日は休み〈ジャッタケン〉、家にいた。

(29) 隣の家の子供は元気〈ジャケン/ジャカラ〉、毎日泳ぎに行ってる。

(30) あの犬は昔元気〈ジャッタケン/?ジャッタカラ〉、よく吠えていた。

名詞に後接する非過去であれ過去であれ、AEFはジャをカラと使えないと答えたのに対し、AJMはジャをカラと一緒に使うのは若い人のことばだと答えた¹³⁾。このことから、ジャは「ジャカラ」よりも方言形式のケンと共に起する「ジャケン」の形式で使われる方が自然なようである。このことについて談話調査でも同じような結果が得られた。談話では、以下のように、原因・理由の接続助詞の方言形と共に起した例は計22例あり、ジャが18例、ヤが4例とジャが優勢であった。そして標準語形のカラと共に起した例はみられなかった。

(31) 098AJM: 腹一つ 食うたら なんでも かまわん ゆう ような時期ジャケンね。

(32) 101AEF: まだ 乗る。 竹馬 上手ヤケンね。

4.4.2. 逆接の接続助詞

大宮方言の逆接の接続助詞にはケンドがあり、これに後接する場合も原因・理由の接続助詞の結果と同様に、非過去であれ過去であれジャを使う。さらに、ジャは標準語形ケドとは共に起しにくいようである¹⁴⁾。

(33) 今日は休み〈ジャケンド〉、やることが多くてバタバタしている。

(34) 昨日は休み〈ジャッタケンド/?ジャッタケド〉、やることが多くてバタバタしていた。

12) ダを使うときもあるが、それは方言形ケンと共に起せず標準語形カラのみと共に起可能のようである。

13) ダに関して、AEFから世代が違う人と話すときに使うという回答を得たため、おそらく標準語の形式又は丁寧な形式だと意識していると考えられる。

14) ただし、名詞と逆接の接続助詞に関して、標準語形のダを使う回答は得られなかったが、(35)の形容動詞の非過去の場合にAJMからのみ「ダケド」という回答も得られた。

(35) 今日は誰もいなくて静か〈ジャケンド〉、明日は孫がくる。

(36) 昨日は元気〈ジャッタケンド〉、今日は暑くて調子が出ない。

この点に関して、談話では逆接の接続助詞ガ・ケド・ケンドと共起する例は9例みられた¹⁵⁾。全体的に以下(37)のようなジャの使用例が多く、面接調査で回答しづらそうであったジャケドの使用例もみられ、面接調査で回答の得られなかったヤケドの使用例もみられた。そのため逆接の接続助詞が後接する場合にはジャだけでなくヤも使用可能といえる。

(37) 263AEF: 今日は お祭りジャケンド、 なんちゃ 知らん。

以上、接続助詞の場合にも、名詞・形容動詞にはジャが使用され、ジャよりも少ないものヤも使用されるという傾向がみられた¹⁶⁾。さらに、ジャは標準語の接続助詞カラ及びケドと共起し難い傾向があるようである。

4.4.3. 接続詞

接続助詞とは異なり、逆接の接続詞の場合にはジャ以外の回答は得られなかった。

(38) 今日は暑いなあ。〈ジャケンド〉、今月中にこの仕事をしなければならぬ。

なお、原因・理由の接続詞の場合には文頭にジャケンなどをそのまま使用するのは2人も違和感があり、以下のようにソン、ソレなどを付加した上で、ジャもヤも使用される。

(39) 〈ソンジャケン/ソレヤケン〉、するなと言ったじゃないか。

談話をみても、原因・理由の接続詞にはヤケンが1例のみみられ、逆接の接続助詞には面接調査で得られたジャケンド(2例)の他にも、ヤケドとジャケドがそれぞれ1例ずつみられた。

4.5. 推量形

本節では、標準語の「ダロウ」に相当する形式(以下、推量形)にジャかヤが用いられるかについて、前接する品詞ごとにみていく。名詞と形容動詞に後接する場合はジャとヤが用いられるが¹⁷⁾、本節のみで取り上げる動詞・形容詞に後接する場合は一部ジャ・ヤの両方が回答として得られたが、当該方言ではローという推量形式があるためジャもヤも用いられない場合もあった。

4.5.1. 名詞に後接する推量形

面接調査によると、名詞に後接する推量形は主にジャとなるが、ヤも現れた。しかし、ヤローの使用に関して自分は使わないが、言う人は言うなどの意識がインフォーマントにはあるようである。

(40) 明日は休み〈ジャロー/ヤロー〉。

15) ケドが共起する2例の他、ガと共起した7例は、準体助詞であるか逆接の接続助詞のガであるか判断がつかないものも含まれる。

16) ダを使用するという回答も得られたが、おそらく標準語から入ってきたものである。さらに、方言であるジャは標準語の接続助詞カラ及びケドと共起し難いようである。

17) ただし、4.2節の結果と同様に、肯定の場合にナカローのようなナを使う回答も得られた。

また、過去形の場合にもジャもヤも可能であるが、ジャッタジャローのようなものではなく、ジャッタ・ヤッタに当該方言の推量形式ローが付く

(41) 昨日は休み〈ジャッタロー／ヤッタロー〉。

談話でも名詞相当のものに後接する場合 15 例のうち 13 例がジャローであり、圧倒的にジャを使用していた。その例を以下 (42) と (43) に示す。

(42) 131AEF: 住みよった人の あれジャロか。

(43) 077AEF: ○○さんの子ジャロ [↑]。

さらに、談話では準体助詞の後ろに現れる推量形は必ずジャローであり、以下の (44) はその 8 例のうちの一つである。

(44) 210AJM: 車で 送ったり、なんや したり するがに、行っちよるがジャロ。

なお、(44) のように、動詞非過去形の後ろに準体助詞とジャローがくる傾向がみられたが、準体助詞がない動詞・形容詞に直接付く場合については 4.5.3 節で後述する。

4.5.2. 形容動詞に後接する推量形

形容動詞の場合には、名詞と同様にジャもヤも用いる。

(45) ほら、あの子にあんなに元気〈ジャロー／ヤロー〉。

(46) 昨日犬は(遊び相手がいて) 元気〈ジャッタロー／ヤッタロー〉。

なお、談話の結果で形容動詞の推量の例が現れなかったが、名詞と同様にジャを取ると思われる。したがって、以上の (45) (46) から分かるように、名詞及び形容動詞の場合にはヤもみられるがジャを取ることが多いようである。

4.5.3. 動詞・形容詞に後接する推量形

名詞と形容動詞の場合にはヤよりジャを使用するという結果が得られたが、動詞と形容詞の場合にはジャとヤの使用にかなり揺れがみられた。それは、ジャもヤも使用しないローという形式が一番自然であることによるものと思われる。

(47) 明日手紙を書く〈ジャロー／ヤロー〉。

(48) 昨日孫が手紙を書いた〈ジャロー/?ヤロー〉。

(49) この着物は高い(?ジャロー/?ヤロー)。

(50) その着物は高かった(?ジャロー/ヤロー)。

AJM は (49) の場合にジャローが使えるかどうかに自信がなく、AEF は (50) の場合にジャローをあまり使わないと回答した。このように、ジャは最も他の形式と一緒に使いやすく、2 人の内省が他の形式と比べて一致しているのだが、動詞・形容詞に後接する推量形の場合は使用されにくく、また、2 人の内省にも違いがみられた。談話に現れた 6 例をみると、ヤローを 1 例除き、動詞の否定形式に後接したものは全てローのみであった。つまり、動詞は (51) のように、ジャもヤも取らないと考えられる。

(51) 189AEF: そじゃなかったら、 やっぱ そんなんが あるローけんね。

4.5.4. 談話におけるヤロー

今まで述べた推量形の結果に関してまとめると、名詞相当はジャ、動詞はジャもヤも取らないローというように、大宮方言では2つの形式を明確に使い分けているようにみられる。しかしながら、数は少ないものの、以上の規則的使い分けを破るヤが3例あった。

(52) 092AJM: 一軒のうちに まー 3人 平均、 150人ぐらいヤロ。

(53) 138AJM: ただ 植えたら できるヤロ 思っちゃったけど、

(54) 208AJM: 見たことないヤローかいしや いうたら

ヤローは(52)で名詞相当、(53)と(54)で動詞非過去形、形容詞非過去形と共起している。つまり、ジャロー・ローが規則的な使い分けの関係にある一方で、ヤローはいずれの環境でも生起できる。

4.6. 結果のまとめ

調査の結果から、次のことが分かった。

- 名詞、形容動詞を述部に取り、接続助詞との共起や接続詞にはジャもヤも使用される。
- 連体形(過去)に使用するのはジャのみである。
- 推量形の場合にはジャ・ヤも使用されるが、動詞と形容詞に後接する場合にはジャが使用しにくい。

このように、当該方言はジャもヤも使用するものの、ジャの方が使用されやすいようである。また、方言独特の形式に後接するのはヤよりもジャが多いという傾向も一部みられた。

5. 考察

以上みてきたように、大宮方言では動詞・形容詞を述部に取り、推量形を除きジャもヤも使用せず、名詞・形容動詞を述部に取り、ジャを主に使用することが明らかになった。このように、大宮方言では2節で予測を立てたとおりジャを主に使用している。しかしジャの他にヤも多く使用されていることが今回の調査から新たにわかった¹⁸⁾。本調査の結果から分かったジャ・ヤの使用範囲及び優勢度をまとめると、次の表3のようになる。なお、表3の行は、使用頻度・優勢度順に並べている。ここでいう「使用頻度・優勢度」とは、面接調査で話者が最初に回答した語形であることや、談話での使用が他の語形に比べて多かったことをあらわしている。

表3からわかるように、大宮方言ではジャもヤも幅広く用いられるが、ほとんどの環境においてジャ>ヤの優先順位がみられる。しかし、名詞に後接する肯定形、仮定形の場合にはジャと同様にヤもよく使用する傾向がみられ、さらに、ジャが使用されにくい動詞・形容詞の推量形のところにもヤが現れた。つまり、ジャが多く使用されているが、それはジャを使用しない場合との使い分けに関する規則によるものである。その一方で、ヤはジャの生起環

18) さらに、地理的に愛媛県に近い大宮の方言では、宇和島方言(工藤2007b)と同じようにナの使用もみられる。ナはジャと同じ形態的環境で使われるものの、その活用はジャと異なり形容詞型である。

境に限らず広い範囲で現れ得るようである。

表3 大宮方言におけるジャ・ヤの使用・優勢関係

前接要素	活用形または後接要素	ジャ	ヤ
名詞・形容動詞	連体形（過去）	●	×
	否定形	●	△
	接続詞・接続詞	●	△
	推量形	●	△
	肯定形	○	○
	仮定形	○	○
動詞・形容詞	推量形	△	●

●：使用され、一方の形式より優勢的に現れた。

○：使用され、一方の形式と同じくらい現れた。

△：使用されるが、一方の形式の方が優勢的に使用される。

また、ヤは広い範囲でみられる形式であるものの、2人のインフォーマントの使用意識がヤに関してあまり一致していない。加えて意識の上でジャの方が優勢的に使用されること、ジャローが生起できない動詞にまでヤローが生起でき、インフォーマントに「言う人は言う」や「若い人が使う」という意識がある。以上の理由から、真田（1984）のいうように大宮方言においてもヤは新しい形式であるといえる。さらに、ヤが新しい形式であることは、ジャが使用されにくい推量形でヤが使用できることと深くかかわっている。先述のように、ジャは推量形においてジャもヤも使用しない「ロー」という形式と述部の品詞により使い分けられている。おそらく古くはこの使い分けが今より厳密であったことと思われるが、標準語の影響によりこの使い分けに変化がみられる。詳しく述べると、標準語の「ダロウ」は前接要素に関わらず使用される形式であり、この影響を受けて当該方言はジャもしくはヤの推量形の使用範囲がローの使用範囲、すなわち動詞や形容詞にまで拡大していく方向にあるのだと考えられる。そしてこのような新しい変化は、新しい形式であるヤとの相性がよい。以上のような背景があり、結果的にヤの推量形が標準語のダロウのように前接要素に関わらず使用できることとなり、ヤの推量形の使用範囲がジャよりも広がったのだと考えられる。4.1節及び4.4節でみたように、ジャが共起できる標準語形式に関してヤに比べて制限があるのは、ジャが古形であるためとも考えられる。

6. 今後の課題

以上、ジャ、ヤについて調査を行い、その結果について述べてきた。その結果、ジャがヤよりも広い範囲で使用されることがわかった。しかし、ヤの使用の頻度や使用意識についてインフォーマント間で揺れがみられることもあり、それがインフォーマントの性差によるものなのか、もしくは個人差など他の要因によるものであるのかは今回の調査からは明らか

かにできなかった。また、連体形のように談話で使用が確認できなかった形式についての考察も十分にできていない。

加えて、本稿はジャとヤに注目してその使用範囲の記述を行ったが、大宮方言でジャ、ヤ、(この他にナや標準語形のダも含め)それぞれの形式に意味的な違いがあるかについての詳細な記述は十分にできていない。ちなみにこの点に関して、今回は談話も補足資料として用いたが、談話を用いてもジャとヤの意味的な差異については明らかにできなかった。例えば、以下の(55)では短時間の間にヤとジャの交替が複数みられるが、そこに規則性のようなものは見出せない。以上についてはいずれも今後の課題としたい。

(55) 098AJM: もー #####は 食うた 思う。(AEF: うちら ほんと 芋 ばっかし ヤッタケン。) じゃけんど その #####時分には、も##と もらったのは、(AEF: うん。) 腹一つ 食うたら なんでも かまわん ゆう ような時期ジャケンね。

099AEF: 自分らが 作って、 食べたん* <ヤケン、と迷う> ジャケン その芋も。 うちら あの向こうの畑は ベツタリ、(AJM: うん。) 芋ばっかしやったん ヤケン。 ほう ジャケン 芋の、 皮で ご飯 炊くいうたら もう、{笑いながら} バケツで ふた一つぐらい。{笑い} 大桶の5升炊き#####。

【参考文献】

- 大西拓一郎 (2002) 「活用」大西拓一郎編『方言文法調査ガイドブック』pp.151-167, 科研費報告書。
- 工藤真由美 (2007a) 「第1章 調査と研究成果の概要」工藤真由美編『日本語形容詞の文法 標準語研究を超えて』pp.3-51, ひつじ書房。
- (2007b) 「第2章 愛媛県宇和島市方言の形容詞」工藤真由美編『日本語形容詞の文法 標準語研究を超えて』pp.119-146, ひつじ書房。
- 真田信治 (1983) 『「ジャ」と「ヤ」の闘争過程—集落全数調査と録音文字化資料から—』『国語学研究』23, pp.1-10, 東北大学文学部『国語学研究』刊行会。
- (1984) 「方言の助動詞—断定」『研究資料日本文法』6, pp.99-115, 明治書院。
- 編 (2001) 『方言文法調査項目リスト—天草篇』科学研究費成果報告書。
- 編 (2002) 『方言文法調査項目リスト—由利篇』科学研究費成果報告書。
- 白岩広行・平塚雄亮 (2009) 「名詞述語に繫辞動詞が必要か—繫辞動詞の使用頻度に認められる方言差—」『日本語文法学会 第10回大会発表予稿集』pp.82-90。
- 高木千恵 (2002) 「高知県幡多方言話者のスタイル切換え」『阪大社会言語学研究ノート』4, pp.55-72, 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室。
- 西尾純二・船木礼子 (2001) 「徳島・吉野川流域でのダ/ジャ/ヤの消長」真田信治編『日本語の消滅に瀕した方言に関する調査研究』pp.86-124, 科学研究費成果報告書。
- 日本語記述文法研究会編 (2003) 『現代日本語文法4 第8部モダリティ』くろしお出版。
- 野間純平 (2013) 「高知県四万十市西土佐方言における準体助詞」『阪大社会言語学研究ノート』11, pp.5-14, 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室。

【使用資料】

日本放送協会編（1966-72）『全国方言資料 1～9』（1999年 CD-ROM で再版）

CARTER Barbara（大阪大学大学院修了生）

blcarter@ualberta.ca

しらすか ちさと（大阪大学大学院生）

cslanguage@gmail.com